OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Communication-Design 1 表紙
Author(s)	
Citation	Communication-Design. 2008, 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/22206
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Communication-Design

異なる分野・文化・フィールド ―― 人と人のつながりをデザインする

この本について

コミュニケーションデザイン・センター

多くの大学では、各部局が定期的に学術雑誌としての「紀要」を発行しています。私たち編集担当も、当初は「紀要」の制作を役割として集まりました。その痕跡は、本書の多くのページが「論集」によって占められるという事実として残っています。しかし、『Communication-Design 2006※』において小林傳司が述べているとおり、コミュニケーションデザイン・センター（以下、CSCD）は、社会から見ると大学の「内」にありながら、その活動はつねに大学の内から外を志向しています。CSCDは、大学の内と外という二つの輪の重なり部分という、新たなポジションを敢えて選び取っている組織です。さらには、その使命に「コミュニケーションデザイン」つまりコミュニケーションのあり方を研究、設計することを掲げていることから、「内」にありつつ「外」でもあるセンターの出版物の位置づけを、「内」から発行される「紀要」の枠内にとどめることができませんでした。いかなる出版物にすることが、私たちに課された使命に取り組むことになるのか、翻って、CSCDとはいかなる組織であり、いかなる使命をもっているのか、何ができる可能性があるのかを問い直すことをとおして、大学が発行する紀要ではない新しいタイプの書物を作ることに落ち着きました。

経緯

当初、編集担当として集められた私たちも、オレンジブック・プロジェクトという名称を自ら掲げ、本書をCSCD独自の取り組みの表現媒体となることを目論んで企画・制作に取り掛かりました。そのため、様々なアイデアがプロジェクトメンバーの内外から出され、予定外のことにも積極的に取り組んできました。本書を販売することもその一つです。たとえば、配布というコミュニケーション形態であることに根拠をおいてデザインされた0号のオレンジの表紙（次ページ参照）は、贈るものから売るものへ／手元に届けられるものから買うものへと変身したことによって、その表情を変えることになりました。そのため、誰かの手にその誰かの意思でしっかりと掴み取られるようデザインすることにも力を注いできました。私たちにとって本書の制作は、不特定多数の読み手との新たなコミュニケーション実験の機会にもなっているのです。他方で、多様な専門家によって手がけられた本書は、逆に読み手を特定しにくくなっているかもしれません。つまり、本書の内容が特定の専門家の興味内に限定されていないために、必然的に誰にとっても専門外となる内容が多くを占めることになっています。が、そのことが逆に、本書のサブタイトルにもある「異なる分野」をつなぐ回路のデザインへと私たちを導いていると思います。

ねらい

本書の名称が『Communication-Design』であることも、この回路のデザインを実現するためです。それは、この本自体が、CSCDの内と外をつなぐコミュニケーションの「回路」となることを目指し、コミュニケーションデザインを論じあう「場」として機能し、コミュニケーションデザインの「スタイル」を提案するものとなることを願って制作されたからです。CSCDを紹介する前半の「特集」部分も、個々の取り組みからコミュニケーションデザインを論じる後半の「論集」部分も、それぞれが分離してしまわないように、両者をつなぐデザインが試みられています。また、論集においても、専門分野外の読者にも理解しやすいように、表現に関して吟味が繰り返されました。このように、この媒体の制作プロセス、すなわち、執筆、編集、装丁デザインの隅々に至るまでコミュニケーションデザインの実験が行われています。そしてその実験は、実際に本書を手にとられる読者をも巻き込んで展開されることが期待されています。

構成

本書は、CSCDの活動を紹介する「第1部　特集」と、「第2部　コミュニケーションデザイン論集」の2部によって構成されています。

特集では、CSCD設立の経緯から、2007年度の活動を簡単に振り返りながら、少しずつ変化を遂げるCSCDの姿をお見せするほか、前号（0号）で行われた各メンバーによる「コミュニケーションデザイン」についての問題提起を、引き続きリレー式の読み物として構成しました。本号ではとりわけ「デザイン」という観点に的を絞り、デザインの実践感覚のなかに埋め込まれたロジックから、コミュニケーションデザイン、さらには活動と組織のデザインに関する提案を試みます。

後半の論集においては、CSCDの活動を担う者たちから投稿されたコミュニケーションデザインに関する論文・実践報告などの8編を掲載しました。掲載された8編は、そのほとんどが共同研究の成果として執筆されたものであり、投稿された以後も、さらに査読、ピアレヴューという仕組みを通して内容と表現双方にわたり洗練が繰り返され、現在のかたちに至っています。

これらはいずれも2007年度の活動を土台に編まれたものです。こうした活動からコミュニケーションデザインがどのように生い育つのか、本書を読み解くことを通して、その回路づくりへと参加いただきたく思います。

オレンジブック・プロジェクト

※『Communication-Design 2006』は、26人（当時）のCSCDの各メンバーを紹介する特集と研究論集を併せ持った出版物として、2006年度に発刊されました。本書を1号としたため、2006年度のものを0号と呼んでいます。この号は配布用としてのみ制作され、多くの関係者の手元に届けられました。現在は、CSCDのホームページにおいてPDF版で公開しています。

Communication Design

目次

第１部　特集

特集
CSCD OnLine 10

Part 1
Interview —— センター長は夢中 12

Part 2
Activities '07 —— 活動はいつも実験中 18

CSCD 科目「メディア技法と表現リテラシー」 20

中之島コミュニケーションカフェ 2007 22

コミュニケーションデザイン研究会 24

Part 3
Relay Dialogue —— デザイナーは対話中 26

第２部　コミュニケーションデザイン論集

論文・実践報告

風景を実践する　データハンダイと媒介のデザイン
花村周寛　本間直樹　関嘉寛　清水良介　小林仁 59

セミフォーマルなテキストコミュニケーション授業の提案
「メディア技法と表現リテラシー」の授業に向けて
伊藤京子 83

科学技術コミュニケーション演習プログラムの開発　CSCD 方式の提案
八木絵香　春日匠　小林傳司 107

サイエンスショップにできること　多元化する社会で大学に求められているもの
春日匠 125

サイエンスショップ猪名川・藻川プロジェクト中間報告
中川智絵　竹内亮介　髙尾正樹 143

科学技術に関する討議を共有するために
科学技術コミュニケーションにおける映像ドキュメンテーション
八木絵香　久保田テツ 159

デザインコミュニケーションの実践とそのコンセプト
清水良介　久保田テツ　花村周寛　尾方義人 181

研究ノート

「現場力」研究術語集（第２報）
西村ユミ　本間直樹　志賀玲子　池田光穂　工藤直志　高橋綾　仲谷美江　山崎吾郎　西川勝 203

論文著者紹介／教員紹介 218

投稿規定 220

編集後記 222